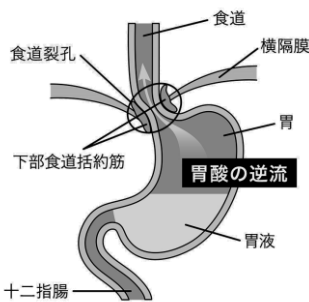


逆流性食道炎



逆流性食道炎とは、胃酸が食道に逆流することにより、胸やけなどの症状や食道に炎症が起こる病気です。

食道は、胃酸に対する防御機能が弱いため、酸に繰り返しささらされることで炎症を起こし、粘膜のただれや潰瘍が生じたり、胸やけや呑酸などの不快な症状が起きます。

【症状】

代表的な症状としては、胸やけ・呑酸が挙げられ、その他の症状としてはお腹の張り・のどの違和感・胃もたれ・頻繁にげっぷが出る・よく咳き込む・胃の痛みなどがあります。



【診断】



逆流性食道炎の診断としては、症状と内視鏡検査で判断します。胃酸が食道に逆流することで、さまざまな症状が起き、医師は患者さんの訴える症状で判断します。例えば「胸がやけつくような感じ」「酸っぱいものが上がってくる」「食べるものがつかえる感じ」などが挙げられます。

内視鏡検査は、食道の炎症の程度や食道が狭くなる、出血するなどの有無をみる検査です。

食道に炎症がなく、胸やけなどの症状だけ訴える患者さんは「非びらん性胃食道逆流症」と呼ばれています。

【治療】

胃酸の逆流を防ぐ方策としては脂っこいもの・甘いものや刺激の強いもの等を控える、食べ過ぎに注意、食べてすぐ横にならないなどの食事面。

お酒・タバコを控える、おなかをしめつけない、肥満・便秘に注意する、できるだけ前かがみならない、寝るときに上体を高くするなどの日常生活面が考えられます。逆流性食道炎の治療方策としては生活習慣の改善と共に、くすりでの治療があります。

胃酸の分泌を抑える薬剤として最も効果の高い薬剤はPPI「プロトンポンプ阻害薬」があり、特徴としては胃の壁細胞に存在し、胃酸を分泌するしくみの最終段階であるプロトンポンプを阻害することで、その働きを抑え、胃酸の分泌を抑制します。その他にH2ブロッカー「ヒスタミン受容体拮抗薬」があり、胃酸を分泌させる3つの化学物質のうち、ヒスタミンが受容体と結合することを防ぐことで、胃酸の分泌を抑制します。



逆流性食道炎の治療は自己判断で中止しないことが大切です。その理由としては一度よくなっても再発しやすい病気の為、医師への相談なしに、処方されたおくすりの服用を、ご自身の判断でやめないようにしましょう。(看護師 西岡 博子)

ふれあい曾山医院

胃腸科・外科・内科・肛門科 <http://soyama-clinic.com/>

志筑1391-9
Tel:62-5566

2020年3月号
(第125号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



谷岡・棟近
西岡・福井
隅田・太田
山内・廣岡